

巻頭言

三井住友建設技術開発センター報告第 11 号の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年の暮に政権が民主党から自民党に移行し、デフレ経済の克服に向け経済政策が展開されました。さらに、昨年末の金融緩和による円安や補正予算による景気対策をきっかけに、景気回復の動きに弾みがついた状況となっています。国内建設市場においても、公共投資の増加や消費税増税前の駆け込み需要を背景とした住宅市況の回復など明るい状況が見え始めています。しかし一方で、労働需給の逼迫による人件費の高騰や資機材価格の上昇など、新たな懸念材料も顕在化しつつあります。

弊社において今後 10 年間で展望し、直面する課題を克服し、安定した経営基盤の確立に向けた強い事業基盤を構築するために、2013 年度（平成 25 年度）を初年度とする「第 4 次中期経営計画 2013-2015」を策定し、活動しております。本計画では、持続的社会的な社会貢献を可能とする未来への投資として、長期的な時間軸で新規事業への進出を目指しております。技術開発においては、弊社のコア分野として位置づけている PC 橋や超高層住宅を中心に新たな価値を創造するイノベーションを追求し、構工法・材料・維持管理などあらゆる面から「高品質化」「高機能化」に取り組むとともに、労働環境の変化に対応した省人化技術や施工管理における ICT 技術の導入などの技術開発を進めております。

当技術開発センターにおいても、本計画のテーマである『「挑戦」～新たなる飛躍へ～』を踏まえ、次の 10 年に向けた新たな歩みをスタートし、計画の確実な実行と未来社会への貢献に尽力する所存です。

技術開発センター報告を多くの方々にご覧頂き、ご批評を賜れば幸いです。

2013 年 10 月

執行役員
技術研究開発本部長
西 村 憲 義